

## 1. 研究の概要

私は現在「ニュージーランド・オークランド市の公共図書館サービス：地域の特徴を活かしたプログラムに着目して」と題した卒業研究に取り組んでおられる。今回現地調査のために図書館情報学海外研修助成を頂き、平成 23 年 8 月 28 日より平成 23 年 9 月 3 日にかけて、オークランド市内の図書館 8 館を訪問した。また、Web 調査では得られない情報と資料を収集し、オークランド市の図書館職員へのインタビュー調査を行った。

## 2. 研究報告

期間中に周ったオークランド市内の図書館 8 館のうち、インタビュー調査を行った Central City Library と Onehunga Community Library の 2 館、それから特に地域と結びついたサービスを観察した Avondale Community Library について報告する。

まずオークランド市立図書館の中央館である Central City Library は、市内のほかの館が Community Library と呼ばれる、地域に密着した館であるのに対し、市内の図書館全体を統括している。また、他の館よりも行政との結びつきが強いとインタビューで伺った。中央館ということで収集する資料の種類も多かった。諸言語のコレクションはマオリ語、イタリア語、ポーランド語、ロシア語、セルビア



図 1 Central City Library

語、シンハラ語、タガログ語、タイ語、など 27 言語の資料が並んでいる。特に中国語は、雑誌のために別の書架が設置されていた。情報サービスチームリーダーの Frances さんにインタビューを行った際、利用者からのフィードバックについて伺ったところ、図書館内にご意見箱があり、図書館の Web サイトにも意見を伝えるフォームがあること、別の機関や Waitemata Local Board が行う利用者の満足度調査の結果を受け取っているという答えが返ってきた。

Onehunga Community Library はオークランド市の南部に位置しており、この地域にはパシフィック系住民の人々と中国系住民の人々が多く暮らしている。この館では図書館と同じ建物内にあるコミュニティセンターと連携した就職支援のプログラムが行われる。また、オークランド市の Community Library に必ず設置されている、Community Language Collection と呼ばれる諸言語コレクションがある。これは国勢調査等の結果に基づいてその地域に最も

話者が多い言語のコレクションを各館に置くというものだ。それが **Onehunga Community Library** では中国語のコレクションとなっている。ほかに地域の特徴を反映させたサービスとしては北京語によるコンピューター講座、**Akozone**（宿題支援プログラム）などがある。また、図書館の主催するイベントに地域のビジネス団体が協力を仰ぐことが多いという話も伺った。9月に **Comic book month** というひと月かけたイベントが行われるが、これには地域に



図2 ティーンズコーナーのサインと、  
**Comic book month** のためのパネル

ある **Botham Comics** という書店がスポンサーとなってコンテストの景品が用意され、展示のパネルも無料で借りているという話だった。インドのお祭を祝う際には地元のカレーレストランがインド料理を提供してくれたり、**Akozone** の子どもたちのイベントを行う際には地域のお店からケーキの寄付を受けたりする場合もあるそうだ。ニュージーランドという国自体が寄付や全体のための行動に社会正義を見出す傾向があるとインタビューの際に伺った。

**Avondale Community Library** は太平洋諸島系の住民とアジア系の住民が多い地域にある。ここでは宿題支援プログラムを月曜日から木曜日の15時から17時半の時間に行っている。15時少し前になると、**Akozone** コーナーのコンピューターはすべて予約状態となり、ほかの利用者は使えなくなる。そして、衝立やプリント類、子どもたちの名前が書かれたフォルダーケースが用意される。15時から16時の間に出席をつけて宿題かまたは **Akozone Activity**（用意されているプリントなど）を行い、それらをきちんと終わらせた子どもには16時から軽食が振る舞われる。16時すぎから17時半まではまた勉強の時間になる。注意書きとして、コンピューターは宿題または **Akozone Activities**、**Tumble readable** というオンライン書籍、スペリングや数学のゲームのために使うようにとあった。ただし、このゲームは宿題か **Akozone Activity** が終わらなければやってはいけないそうだ。この館では、学校帰りに寄っているらしい制服姿の少年少女たちがとても多かった。また、ファッションに関する資料の展示コーナーには近くの小学校の生徒による工作作品（ドレスや帽子、マントなど）が飾られていた。図書館のすぐ裏には **Auckland Community Pre-school** があり、児童コーナーには塗り絵が飾られるなど教育施設との結びつきが強いように思えた。

今回の渡航を通して感じたことは、どの館でも利用者が非常にくつろいでいるということだった。オークランド市の図書館では、コミュニティ・ラウンジのような図書館を目指しているようで、にぎやかな館が多かった。館によって違うのは地域の特徴の反映の仕方であり、館内の展示や各コーナーの大きさにそれが表れていた。